

しんしんいちにょ
 仏教通信「心身一如について」10月

こうせいろうどうしょう まいとし がっ ぞうきいしょくふきゅうすいしんげっかん さだ ぞうきいしょく びょうき けが
 厚生労働省では、毎年10月を「臓器移植普及推進月間」と定めています。臓器移植とは、病気や怪我
 しんたい ないぞう きのう いちじる ていか かんじゃ ほか ひと ぞうき ていきょう しゅじゅつ
 で身体(内臓)機能が著しく低下した患者に、他の人から臓器を提供してもらい手術の事です。こ
 ぞうきいしょく おこな かんじゃ いのち すく しんたいきのう かいふく こと にほん おうべい
 の臓器移植を行うことで、患者の命を救い、身体機能を回復する事ができます。ただし、日本では欧米
 くら ぞうきいしょく ふきゅう じょうきょう こくない いしょくきぼうしゃ うち しゅじゅつ う
 と比べ臓器移植が普及していない状況であり、国内16,000人の移植希望者の内、移植手術を受け
 ねんかん こうせいろうどうしょう こくない ぞうきいしょくしゅじゅつ すいしん
 られる人は年間400人しかいません。そこで、厚生労働省では、国内の臓器移植手術を推進したいと
 かんが ねっしん
 いう考えから、普及活動を熱心に行っています。

おうべい はいけい しそう れいにくにげんろん てつがくしゃ
 欧米において脳死臓器移植が普及した背景には、キリスト教思想の「霊肉二元論」や、フランスの哲学者
 と ぶっしんにげんろん おうべい ひとびと ていちゃく にくたい ぶっしつ こころ せいしん わ
 デカルトの説いた「物心二元論」が欧米の人々に定着しており、肉体(物質)と心(精神)を分けて
 かんが のうきのう ていし いしき しょうしつ のうし のうぜんたい きのう うしな せいめいいじそうち
 考え、脳機能が停止し、意識を消失する「脳死(脳全体の機能は失われているが、生命維持装置に
 にくたい い じょうたい ひと し とら かんが
 より肉体が生かされている状態)」を「人の死」と捉える考えにつながったといわれます。

ぶつきょう いたい たい しゅうじやく ふたとお かんが ひと
 そして、仏教では肉体(遺体)に対する執着はありませんが、二通りの考えがあります。まず、一つ
 しんしんいちにょ しそう きのう ひと ぜんしん かん かみ け つめ ぜんしん
 目は「心身一如」の思想で、人の心は脳だけの機能ではなく、人は全身で感じ、髪の毛や爪にいたる全身
 み かんが のうきのう ていし のうし とら
 に命が満ちていると考え、脳機能が停止した脳死が、そのまま「人の死」ではないと捉えます。

しゃしんふ せぎょう たしや わ み ぎせい たしや い
 二つ目は、「捨身布施行」という仏教思想があり、それは、他者の為に我が身を犠牲にし、他者を生か
 おこな くる たしや ぞうき
 す行いのことであり、臓器移植は、苦しんでいる他者のために、臓器
 ていきょう こと しゃしんふ せぎょう とうと おこな
 を提供する事は、仏教の「捨身布施行」にあたりと尊い行い
 あるという考えです。

こんげつ ぞうきいしょくふきゅうすいしんげっかん ひろ もくてき
 今月の「臓器移植普及推進月間」は、臓器移植を広める目的だけ
 せい し じぶん こと とら いのち かけ せんべつ
 ではなく、「生と死」について自分の事として捉え、命の価値や選別
 くに けいざいりょく ひんぶ さ しょう わたし
 が、国の経済力や貧富の差によって生じないように、私たち
 ひとりひとり まな きかい かんが おも
 一人一人が「いのち」について学ぶ機会であると考えたいと思
 います。



スジャータの布施